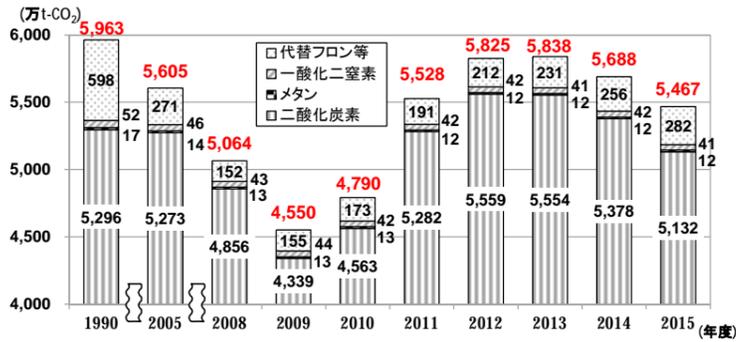


～府域の環境はおおむね安定的に推移しているが、地球温暖化・ヒートアイランド関係など、引き続き対策が必要である～

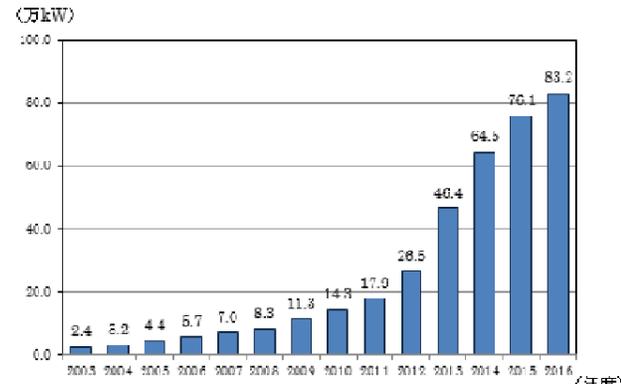
## 地球温暖化・ヒートアイランド関係

○温室効果ガスの排出量については、2015 年度は、2014 年度と比べ 3.9%減少している。



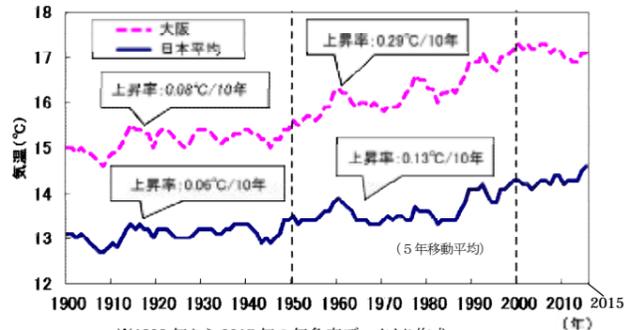
【温室効果ガス排出量の推移】

○太陽光発電設備の導入状況については、2016 年度は 83.2 万 kW であり、2015 年度の 76.1 万 kW と比較し、9.3%増加している。



【太陽光発電導入量の推移】

○年平均気温は、日本平均を上回る変化率で長期的に上昇している。



【年平均気温の推移】

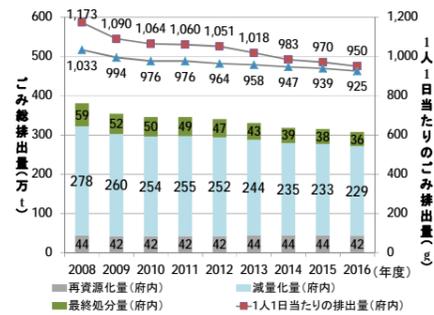
○熱帯夜数は、近年は減少傾向にあるものの、長期的には依然多い状況である。



【熱帯夜数の推移】

## 廃棄物の減量化・リサイクル関係

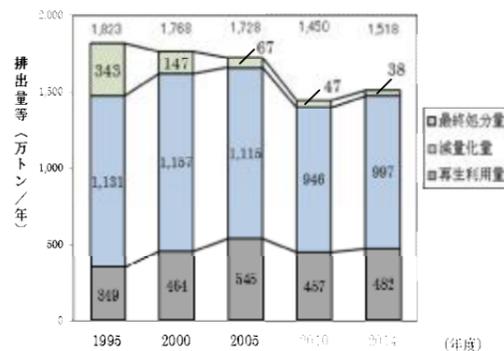
○2016年度の1人1日当たりのごみ排出量は 950 g / 人・日となっており、前年度と比べ 2.1%減少している。



【一般廃棄物の排出量等の推移】

※1人1日当たりの排出量は外国人を含む人口を元に算出  
※四捨五入しているため、合計が合わない場合がある。

○産業廃棄物については、2014年度の最終処分量は 38 万トンであり、2010年度と比べ 19.3% (9万トン) 減少している。

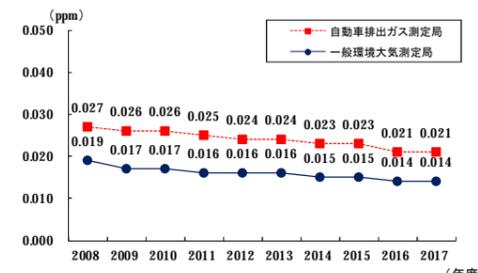


【産業廃棄物の最終処分量等の推移】

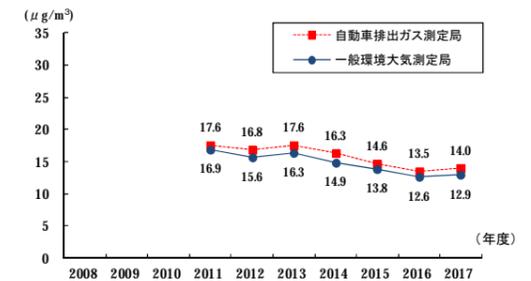
※四捨五入しているため、合計が合わない場合がある。

## 大気関係

○二酸化窒素の年間 98%値は環境保全目標の上限値 0.06ppm を下回るレベルに達し、年平均濃度も緩やかな改善傾向で推移している。微小粒子状物質 (PM2.5) の 2017 年度における年平均濃度は、前年度に比べてやや上昇したが、緩やかな改善傾向で推移している。



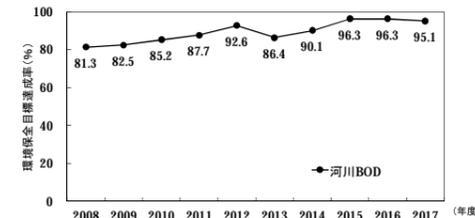
【二酸化窒素の年平均濃度の推移】



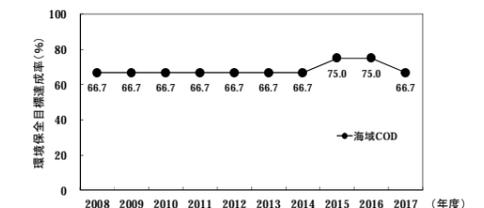
【PM2.5の年平均濃度の推移】

## 水質関係

○河川の生物化学的酸素要求量 (BOD) は、概ね改善傾向にあり、2017 年度の環境保全目標達成率は 95.1%である。大阪湾の化学的酸素要求量 (COD) (全層平均の値) は近年緩やかな減少または横ばい傾向にあり、環境保全目標達成率は、2017 年度は 66.7%である。



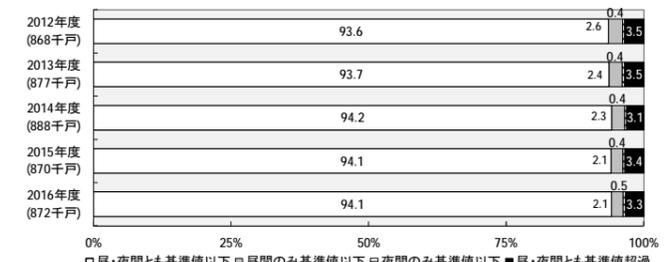
【河川のBOD環境保全目標達成率の推移】



【海域のCOD環境保全目標達成率の推移】

## 騒音関係

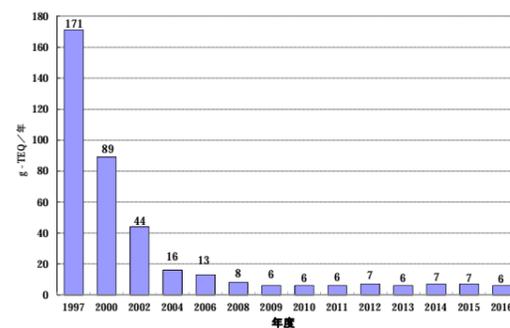
○道路沿道における環境保全目標の達成率は改善傾向にあり、2016 年度は昼・夜間ともに目標値以下の住居等の割合は 94.1%である。 ※達成状況は、沿道に立地する住居等のうち、騒音レベルが目標値以下の住居等の割合を推計



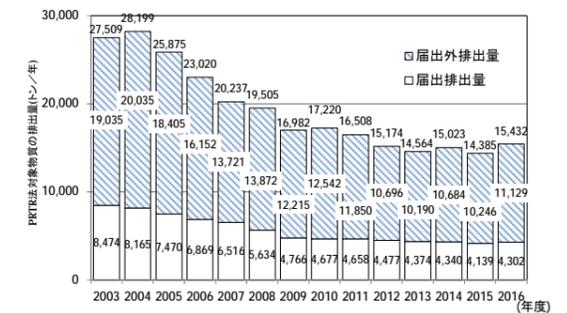
【道路に面する地域における環境騒音に係る環境保全目標達成率の推移】

## 化学物質関係

○ダイオキシン類の排出量は、近年横ばいで推移している。  
○化学物質排出把握管理促進法 (PRTR 法) 対象の化学物質の排出量は概ね減少傾向にある。



【ダイオキシン類排出量の推移】



【PRTR法対象物質の排出量の推移】

※全て府域の状況を示した数値である